

JEG ニュースレター 184号

www.jegschweiz.com

2022年9月22日

小さな証

欠け、ヒビだらけの私を神様はそのまま愛して用いてくださる、”土の器”として教えられたことは、。P2

5名の新入会員

スイスJEGの大切な課題は次世代の育成です。その祈りに応えて主は5名の若い会員を送ってくださいました。P3

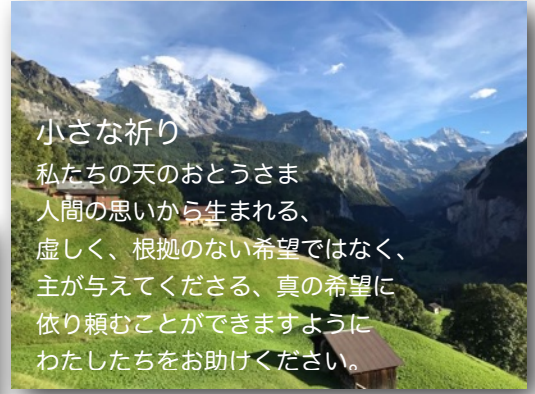
ヨハンナ姉が日本へ

トムセン家の次女ヨハンナさんが11年前大津波に飲まれた岩手の大船渡に福音の種を蒔きに行かれました。

P3

キリスト者の集い

シュトゥットガルト郊外のキリスト教施設で開催された第39回の集いに集まった兄弟姉妹の感想と証を特集しました。P4-P16



小さな祈り

私たちの天のおとうさま
人間の思いから生まれる、
虚しく、根拠のない希望ではなく、
主が与えてくださる、真の希望に
依り頼むことができますように
わたしたちをお助けください。

兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。

ガラテヤ人への手紙 5章13節

現代人はこの2年、かつて経験したことのない未曾有の自由の剥奪と権利の制限に直面し、政治的には共産／全体主義が民主主義にとって変わるという体験を経てきました。そのような危機的状況において、“キリストにある自由”とは何か、その問いを胸に、多くの欧州のキリスト者がシュトゥットガルト郊外に集まりました。

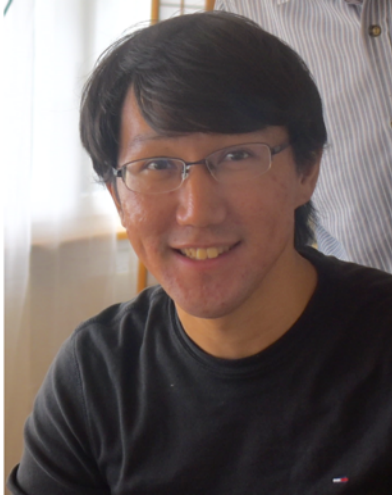
第39回ヨーロッパ・キリスト者の集いの会場：シェーンブリック

小さな証

土の器として

櫻井翼

スイス日本語福音キリスト教会



私はスイスへは会社の研修制度でやってきました。入社5年目以上の社員を対象に、世界各国にあるグループ会社へ一年間限定で派遣され研修するというプログラムです。

派遣先の希望は一応出せますが、会社が決定しますし、原則Noとは言えません。私はヨーロッパというざっくりとした希望を出していました。日本で仕事

をしている時から、ドイツ関係の仕事はしていたので、「ドイツに行ければいいかなー」と考えていました。上司から派遣先がスイスになったと聞いた時、「ヨーロッパで良かったな」という安堵の気持ちもありましたが、スイスでの仕事のイメージもなく、スイスでどんな仕事するんだろうと漠然とした不安もありました。しかし神様は、今私に必要なものを与えようと、このスイスの地に導いて下さったのだと思います。

私は両親がクリスチャンで小さい頃から教会に通っておりました。そして小学2年生の時に2つ上の兄と一緒に大阪豊中にある教会で洗礼を受けました。ただ、洗礼の時の主観的な記憶がなく、信仰的にも何か変わったという強い記憶も残念ながら残っていません。

その後私が小学4年生の時に引っ越しをし千葉へ移りました。家から徒歩5分に教会があることもあり、日曜日は礼拝と伝道会、水曜日は祈祷会に毎週家族で集っていました。その頃、小学生だった私は野球が大好きでいつも友達と放課後に野球をして遊ぶ少年でした。

そのため地域の少年野球チームに入っている友人から誘われることが多々あり、私もチームに入りたいなと思っていました。しかし、何度か見学へはいきましたが、練習の日が日曜日のことが多く、結局両親にチームに入りたいと相談することなく断念したことを覚えています。中学、高校でも、日曜日の部活は休みをもらい、教会に通っていましたが、水曜日も部活が終わった後、教会へ直接行き、夜の祈祷会も守っていました。

しかし、自分の自由が制限されている、教会に通うことが面倒だなどと思うことはなく、むしろ自発的に教会に行っていると思っ

ていました。その頃はある意味、「真面目なクリスチャン」かなと思っていました。

高校卒業後、非常に厳しいと思っていた希望の大学に奇跡的に入ることを許され、親元を離れ秋田にある大学に在学しました。しかし、朝の弱さ、教会の遠さ、授業の忙しさにかまけて、教会から離れてしまいました。恐らく4年間で10回も行っていないと思います。その時に、これまでも全く自発的ではなく、ただ親に連れられて教会に行っていただけだったと気づかされました。

しかし特に教会には行きたくないと思っていたわけでもなかったため、仕事の関係で次は名古屋にある教会へ導かれました。4年間のブランクがありましたが、神さまはまさに放蕩息子の話のように迎えてくれました。しかしそれだけではありませんでした。神さまの思いが色々な事を通して、私の心をきこりのように打ちつけてきました。

クリスチャンはアクセサリーではない、取り外しができないものだ。人は神のことばによって生きる、聖書を読まずに生きるクリスチャンは健全な姿ではない、など毎週牧師先生を通して語られるメッセージは、私のこれまでのクリスチャンとしての未熟さ、傲慢さ、脆さを指摘してくれました。そんな時に心に響いたのは、土の器という歌でした。欠け、ヒビだらけの私を神はそのまま愛し用いてくださるとい歌詞に、今まで感じたことのないほど、自分の罪深さと神さまの愛に気づかされました。

スイスJEGの皆さんとは、集会の時以外でも家に招いて食事を共にさせていただいたり、素晴らしい交わりの時を持つことができ、本当に感謝しています。聖書の言葉に向き合い、神様への感謝にあふれ、周りの人と愛ある関係を築いていく皆さんの姿を見て、私もこのようなクリスチャンに成りたいと思われました。これはずっと日本の同じ場所にいたら気付かなかった思いかも知れません。神様は私のクリスチャンとしての信仰生活に今必要な人、場所、時間、を不思議な形で与えて下さったと信じています。

本当にこの一年、このような私に皆さんとても良くしてくださり、多くを学ばされ、神様からの恵み、愛を受けるばかりでした。次に遣わされる場所で私も与えられる者になれるよう、お祈りに覚えていただくと幸いです。年間本当にありがとうございました。



1、スイスJEGに5人の若い新会員が与えられました。



信仰を継承し、神の家族である教会を引き継いで担う若い世代の育成は、スイスJEG創立以来の願いであり、祈りの課題であり続けてきました。

その祈りに応えて、主は5名の若い世代のキリスト者を教会に送って下さいました。

規制のために延期されていた入会式が、2年の時を経て9月18日の日曜礼拝のなかで執り行われました。この度、入会された兄弟は平岡厚兄、ジンジン姉、マーク・グルケンマイヤー兄、マイヤ・トムセン姉そして井ノ上歌歩姉（コンサートのために欠席）の5名です。新会員は教会においても、大切な役割を担い、宣教の働きに加えられることとなります。

また、同日、トムセン・チャーリー兄（教会役員）が、ティーンズ&ユースのリーダーとして任命されました。これまで、若者を愛し、リーダーとしてのお働きを長年に渡って担ってくださった今村葉子姉に心から感謝の意を表したいと思います。



2、この夏もフィンランドから加藤牧師をお迎えしました。



この夏もスイスJEGは7月6日にフィンランドから加藤琢実牧師をお迎えしました。7月9日は今村宅にてユールグループをリードされ、日曜日はスイスJEGにてみことばを取りつがれ、その後、独メアスブルグの原兄姉宅にて、11-12日プリンセス会、15日は家庭集会とご奉仕をされました。また、サンクトガーレンのクスター家においては家庭集会を導かれ、それぞれの集会は豊かに祝福されました。加藤牧師の日曜礼拝におけるメッセージ→

キリストに聞き、結ばれ、教えられる。新しい人を着る人生

3、仏オルレアンから阿部知幸牧師をお迎えして。

8月28日（日）の日曜礼拝には、フランス・オルレアン在住（パリより南に120km）でOMF宣教師でもある阿部知幸牧師をお迎えし礼拝を捧げました。前日には、オルテンの今村家において同牧師を囲んで家庭集会が持たれました。阿部牧師は神の視点から見



スイスJEG/家庭集会のスナップ



た人生をテーマに、マタイ25:14-30からみことばを解き明かされました。その日の説教はアップロードされたものをご視聴いただけます。→[神の視点から見た人生](#)

4、トムセン家の次女ヨハンナさんが岩手大船渡に！

7月19日、岩手での宣教実習(OMF)のためヨハンナさんは約1年間の予定で日本に旅立たれました。京都に祖母を訪れた後、8月23日に任地の岩手県大船渡に着かれ、[Grace House](#)教会のメンバーとともに宣教活動に従事しておられます。



ヨハンナ姉が、人間をとる漁師としての日本でのご奉仕が主イエス・キリストご自身によって、大いに祝福され、用いられ、守られますようにお祈りいたします。

5、第39回ヨーロッパ・キリスト者の集いが終了

8月4日から7日まで、シュトゥットガルト郊外のシュヴェビッシュ・グムンドにあるキリスト教宿泊修養会施設シェーンブリックにおいて、157名の欧州各地からの参加者を得て”キリストにある自由”をテーマに開催された第39回ヨーロッパ・キリスト者の集いが祝福のなか、無事に終了いたしました。

集いにおける講演録画、スライドショー、ビデオ記録は集いのオフィシャル・ホームページの[シュトゥットガルト特設サイト](#)にアップロードされていますのでご利用ください。

また、9月19日（月）には、在欧日本人宣教会の主催によって、「欧州キリスト者の集い」の恵みを分かち合う会がオンライン開催され、16名（日本8名欧州8名）の参加者とともに、集いの恵みを再び味わい、主の恵みを数える時を過ごしました。集いに参加された3



名のゲスト、川上寧牧師、ナタナエル・ガウブさん、阿部知幸牧師に、主の恵みや教えられたことを、語っていただき、参加者からは集いへの思い入れや得難い体験談を聴く機会が与えられました。

なお、第40回の集いは、今年同様3つの日本語教会の共同企画と運営によって、同場所で2023年8月3日から6日まで開催の予定です。

6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています！

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、パルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄弟は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

SCHWÄBISCH GMÜND



第39回

ヨーロッパ・キリスト者の集い

証と感想



あふれる主の栄光、心揺さぶられた分科会

高木恒輝

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

昨年に引き続いて、この夏も家族四人で集いに参加することができました。一年ぶりに再会した兄弟姉妹、また、新しくお会いした兄弟姉妹とともに、とても楽しい交わりの時を過ごさせていただき本当に感謝にあふれた四日間でした。



私の特に印象的な思い出は分科会②で「祈り、黙想、デイベーション」の会に参加したことです。素敵なおチャペルの雰囲気の中で、シスター・ソハラ姉のリードの下、祈りを通して神様との豊かな愛に満ちた交わりが与えられる恵みを皆さまと分かち合うことが

できました。

一人ひとりが分かち合いをしていく中で、その場所全体が神様の栄光、聖霊に満たされて、自然と胸の内から神様への賛美が溢れてきました。今思い出しても心震える感動的なひと時でした。

「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。(イザヤ6:3)」

余談ですが、実は事前にどの分科会に参加するかと決めてはいませんでした。分科会の始まる前の空き時間に小チャペルに行き、日曜日の礼拝奉仕のためのピアノ練習をしていた際、たまたまシスター・ソハラ姉が会場の下見に来られ、そこで少しお話をしたこと、それがきっかけでこの分科会に参加してみようという思いが与えられたのです。



ただ主に導かれて、この本当に素晴らしい神様との交わり、聖徒の交わりに加わらせていただけたこと、今振り返っても改めて主に感謝したいと思います。

是非来年も家族で参加したいと思います。また皆さまと再会できるのを楽しみにしています。



キリストのからだ

藤原誠

シオンの群教会

私がヨーロッパ・キリスト者の集いに参加したのは今回で6回目です。神様はこれまで、ヨーロッパ・キリスト者の集いで聖書のメッセージやそこで出会った方々との交わりを通して、何度も個人的に私に語りかけ、チャレンジを与え、神の家族の中で憩うことを教えて下さいました。

以前は主の御声を聞くこと、そして祝福を受け取ること求めて参加していたヨーロッパ・キリスト者の集いでしたが、神様の不思議な導きによって、前々回、前回、今回と3回続けて、私はヨーロッパ・キリスト者の



集いの準備と運営に携わらせていただきました。

キリスト者の集いの準備の中では、神様の驚くべき御業を見させていただくと共に、何度も霊的な戦いを経験しました。難しい問題に直面する時、自分も含め人と人の衝突に立ち会う時、頭に浮かぶのは、罪にまみれた私たちのこの世界の只中でいつも破れ口に立って下さっているイエス様の姿でした。

神様に仕えるとは、ただひたすら神の前にへりくだり自分自身を砕かれながら人に仕えることであることを、体験的に教えていただきました。一つ一つの事柄を霊的な目をもって受け取り、主の御霊によって祈ることを問われました。

そして、身の回りのことや心に浮かぶ思いに振り回され捉われて、それができない自分も見させられました。しかし、当日実際に集まったその場所は主の祝福と恵みに溢れていました。準備の欠けや想定外の混乱も色々ありましたが、それらがまるで小さいことのように思えてしまうほどの、共に集まって主を喜び礼拝する感動がありました。

それはまさしく教会の姿であったように思います。教会は私たちのものではありません。誰かの信念や努力でできたものでもありません。イエス様のことばによって生まれ、イエス様の御霊によって生きているキリストのからだです。私には、キリスト者の集いは「教会が一つからだであることを確認する場」として神様が欧州日本語教会に関わる私たちに与えて下さっている恵みであるように思えてなりません。

神学的立場や礼拝形式、住んでいる地域の習慣や文化、日本語が母国語かそうでないか、そのような互いの違いを尊重しながら共に一人の主をほめたたえて礼拝し、主の愛をもって互いを愛し合うことができますように。ただただ主の栄光が現され、主の御名がほめたたえられますように。



孫連れ参加

石引正志

ストラスプール日本語礼拝

昨年に引き続いての2度目の参加でした。しかし昨年は自宅からの通いでしたので、宿泊をして全プログラムに参加した今回が実質的には初参加となりました。

早天祈禱会やスモールグループでそれぞれの抱える問題を述べて、個々人の名を挙げて祈り合うことなど、今までの教会生活ではあまり経験してこなかったのが、少し戸惑いでしたが、新鮮な体験でした。



力のこもったメッセージ、直接聴くと、迫力があり心に響きました。

3年ぶりに日本から娘の家族が来欧したので孫連れで参加できたのは、感謝でした。お世話になった先生方ありがとうございました。とても楽しかったそうです。

企画運営にあたった実行委員の方々の長期にわたるご奉仕に心から感謝いたします。



すべては主のお働き

山内幸子

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

「主が私に与えてくださった自由を主の御用に用いていただけたら幸いです」

恐れながら、震えながら、それでも何かに背を押されるようにそのようにお応えしたのはまだ凍えるほど寒い2月の初めだった。何も誇ることがない欠けだらけのぼろぼろの器のようなこの者をも通して、主が御自身の栄光をあらわしてくださると信じて幼少科の奉仕をお引き受けした。

若い兄弟姉妹と共に祈り、準備を進めてきた日々は尊く、恵みと慰めに満ちたひと時であった。集いに参加する子どもたちのため、そのご家族のため、また集められた奉仕者お一人おひとりのために祈ることができる恵みに感謝した。



夫そしてフーヴェク栄姉と

てくださるのかを正しく受け取ること、そして頭の中での理解だけではなく、口先だけでもなく、御ことばを実行していくことでより深く主の御愛に触れられていくことだ。

何度失敗しても、決して見捨てられることはない大きな御手の中で安心してチャレンジしていく。神は私たちにさまざまな経験をさせながら私たちが神の視座へと導かれる。そのようにしてイエス・キリストの似姿に変えられていく恵みを共に享受していく幸いな神の家族の中に置かれている。

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。』ヨハネ13:34b

『主は言われた。「あなたは、自分で労さず、育てもせず、一夜で生えて一夜で滅びたこの唐胡麻を惜しんでいる。ましてわたしは、この大きな都二

ネベを惜しまないでいられるだろうか。そこには右も左も分からない十二万人以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか。』

ヨナ書4:10-11

『愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、全てを忍びます。愛は決して絶えることはありません。』

コリント人への手紙 第一 13:4-8

『子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。』

ヨハネの手紙 第一 3:18



このみことばを心に刻みながら、子どもたちと一緒に全人格を捧げて主を賛美し、みんなで恵みを分かち合い、たくさん遊んだ。ただただ楽しかった。うれしかった。感謝だった。あつという間の4日間だった。

一年に一度ヨーロッパに散らばっているキリスト者がひと所に集められるこの集いに心から感謝する。準備から関わることで特別な恵みを与えてくださった主に感謝する。共に労してくださった兄弟姉妹方に感謝する。子どもたちを送り出して下さったそれぞれのご家庭、教会に感謝する。背後で祈り支えてくださった兄弟姉妹方に感謝する。集いで集められたおひとりおひとりに感謝する。

すべての栄光が主に帰されますように、感謝して祈りつつ。



私は1992年に洗礼を受けましたが受洗後ほどなくして教会を離れてしまいました。2017年に家内を病気で失いましたことがきっかけとなって再びパリ日本語教会の聖日礼拝に出席するようになりました。

思えば25年間教会を離れ神様に背を向けていたこととなります。礼拝に再び出席するようになってからも、礼拝に数か月間出席しない期間が繰り返し私には起きていました。ようやく日曜日の聖日礼拝に欠席することなく継続して出席できるようになりましたのは、Zoom礼拝がようやく終わり教会での礼拝が再開しました一年ぐらい前からではないかと思えます。

礼拝には毎回出席できるようになりましたが、礼拝後に教会を後にして帰宅する途中ではいつも何か霊的に満たされないものを感じ寂しさを覚え続けていました。私はいつも、教会で知り合いました信徒の方たちの嬉しそうな喜びにあふれた姿を見るにつけ、「どうして受洗して聖霊が私に内在しているはずなのに、私にはこの方たちのように喜びに満たされて生きていけないのだろうか。」と悶々としておりました。

「聖霊が私に内在しているはずでイエス様が私と共に生きてくださっている」はずなのにどうして私には、聖霊の内在やイエス様の臨在が実感できないのだろうと、いつも考えていました。ですから礼拝に出席しても他の信徒の方たちとの交わりに積極的に参加する気持ちになれず、さっさと教会を後にしていました。

ある日、パリ教会での礼拝に出席できるようになってほどころ、教会の友人の一人から、その方が子供礼拝でメッセージするから子供礼拝に来ませんか誘われて出席したことがきっかけで、子供礼拝に継続して出席しているうちに、子供讃美歌で振り付けと一緒に賛美するときの歌詞やメッセージを私はとても素直な新鮮な気持ちで受け止めることができるようになりました。

そしていつの日か、私は子供礼拝で賛美しながら自分が神様を心から讃美している自分に気づいて子供礼拝が終わるといつも私の心が温かいもので満たされて励まされていて、心身が疲れて子供礼拝に出席しても回復できて元気になっている自分に気づきました。

「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」

マタイによる福音書 18:3

私は自分の心が、神様によって変えられて神様の前に以前よりずっと素直になれて幼子の心に似たようになっている自分を見いだしました。私がこのように神様に現実に変えられていることを知ったとき、私の心には聖霊が日々働いてくださっていてイエス様が私のそばにいつ

聖霊が私に内在し イエス様が私と共に

高塚誠二

パリ・プロテスタント
日本語キリスト教会



もおられるという実感が少しずつ湧くようになってきました。

同時に大人の礼拝についても、それまでは背広にネクタイという姿で毎回出席していましたが、こうした装いは止めて週末の普段着で出席できるように気持ちが変えられましたし、礼拝後の交わりにも自然に参加できるようになっていました。私は

このように神様が自分の心を変えてくださっていることを知って、自分自身の上に、全能の神様のほかには誰もできない奇跡が起きていることを知り、聖書に記述されている奇跡は本当に起きた史実であったことを、受洗後初めて確信することができて実感しました。

こうした実感が少しずつ私の内に湧き上がるようになりその思いが確信となり、パリ教会での礼拝でも心から主を賛美できるようになったのは修養会に参加する数か月前ぐらいからでした。パリ教会でのワーシップソング、修養会でも歌いました「誰も見たことのないことが」を歌い主を賛美するとき、私は自分自身が主によって少しずつ現在進行形で変えられている体験が重なり感無量の思いで時に落涙を押さえることができずに賛美していました。

このように主に変えられていることを実感しつつ参加した修養会は、牧師先生方が取り次がれた神様からのメッセージ、スモール・グループ・分科会で参加者の方々と心の内の思いを腹藏なく語り合えたこと等々、すべてのプログラムを通じて、神様が私を憐み選ばれたこと、愛して祝福してくださっていることを実感し神様の臨在を体感できた三日間となりました。

特にシスター・ソハラさん主催の分科会では、雑音が遮断されたチャペルの静まった環境のなかで、シスター・ソハラさんをはじめ参加者の方々と心の深いところの思いを打ち明け話し合う中で、聖霊様の働きと神様の臨在を、この時ほど私の人生の中で強く体験できたことはありませんでした。

シスター・ソハラさんの語るお話を聴きつつ、私はシスター・ソハラさんと共におられるイエス様を、お姿は見えませんが、生まれて初めてその慈しみにあふれた存在に触れて実感して落涙をとどめることができずでした。今思い返すとこのような体験をできたのも神様が少しずつ私の頑ななこわばった心を溶かして砕いてくださって幼子の心に変えてくださったからだだと確信して止みません。

最後に、このような稀有な体験をすることができました修養会の企画・準備・実際面での運営に携わられたお一人お一人の方に心から感謝してお礼を申し上げますとともに、これらの方々を用いられた主を賛美して止みません。来年もぜひ参加させていただき主がなされる妙なるみわざを確認し合い、共に大いに主を賛美いたしたいと願います。ハレルヤ!

自然な形でイエス様を体験

渡邊航

デュッセルドルフ日本語キリスト教会

主の御名を心より賛美いたします。

私は今回3年ぶりにヨーロッパ・キリスト者の集いに参加しました。やはり実際に顔を合わせてヨーロッパのキリスト者と夜遅くまで交わりの時を持てる集いは良いものだたと改めて実感しました。



私はティーンプログラムのスタッフとして今回の集いに参加しました。13~17歳まで7人の中高生たちと4日間、「キリストにある自由」についてメッセージを聞いたり賛美をしたり、スモールグループで話し合ったり盛りだくさんのプログラムでした。この7人にとってはかけがえのない信仰の仲間ができた本当に良い時だったと思います。

集いの最後の夜にある中学生がシェアしてくれた証をこの場でシェアしたいと思います。「僕はキリストチャンホームで育って一応神様のことを信じているけれど、でも何度も問いただされたら、もしかしたら神様を否定してしまうかもしれません。でも今回の集いで自分と同年代のキリストチャンがいることを知って本当に嬉しかったです。また聖書ってめっちゃ面白いじゃん！って思いました。来年もぜひ参加したいです！」



この証を聞いたとき本当に嬉しかったです。神様が中高生たちに直接語りかけてくださって彼らの信仰を成長させてくださったことを強く感じました。

思春期の子供たちはいろいろなことを考えて日々過ごしています。集いはそんな多感な彼らが自然な形でイエス様を体験できるかけがえのない場所なんだと強く感じました。今後も集いが信仰継承の場として用いられることを心から祈ります。

ヨーロッパ・キリスト者の集い所感

馬場信裕

ロンドンJCF

2019年の集い以来、3年がたち、待望の39回ヨーロッパ・キリスト者の集いに参加できたことを主なる神に感謝しています。



久しぶりに再会できた方々とコロナ禍を生き延びられたことを感謝し、確認することができました。今回参加者名簿に多くの新しい方々の名前が掲載されており、キリスト者の集いは間違いなく次の世代に引き継がれていることを確信しました。

1980年台初頭スタートしたキリスト教派の垣根を取り払ったヨーロッパ在住の邦人キリスト者の集いは40年間脈々と続けられ2020年一時開催不能になったものの、翌2021年は限定参加者とオンラインによる開催が継続されました。

2020年までは単一教会若しくは2教会の主催による開催でしたがコロナ規制の中で実行委員と参画教会による開催という新たな手法を見いだせたことは規制によってもたらされた主の大きな恵みの一つです。第40回41回も開催場所と日程も確定でき、継続開催が決定され、主の恵みと導きを確認しました。

過去の集い開催を担当した主催教会は集い終了後バーンアウトしてしまい、次期開催は10年後でないかと立候補しにくいといわれてきましたが、このことへの解決の道があたえられたこととなります。

実行委員と参画教会による開催という新たな手法のもとに資金管理と法人化による運営は必須課題であり、これによって集いの新たな前進を心から願っています。



本当の自由とは

富永重厚

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

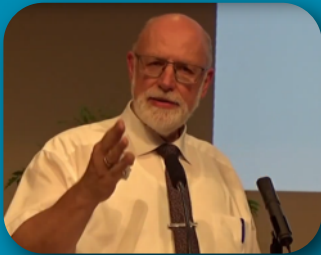
私にとって「自由であること」は若い時から人生で最も強い願望であり目標でした。私はどんな時でも「自由でありたい」と願っていました。

大学を卒業して銀行に勤め始めた時も規則や命令から自由でありたいと考えていました。従って入社して4年後に2年間のフランス留学の機会が与えられた時はこれに本当に自由な生活ができると喜びで一杯でした。

事実日本という束縛から逃れて自由に生活したパリの留学はその後の私の人生に大きな影響を与えました。もう絶対に失いたくない自由でした。しかも仕事は楽しく私生活も自由に恵まれある意味で充実した人生でした。

従ってクリスチャンであった母が何度「教会に来るように」「信仰を持つように」と勧めてくれても束縛されるのが嫌でその気になりませんでした。信仰を持つと不自由になると感じていました。

しかし、そんな私を神さまは実に不思議な方法で信仰へと導いて下さいました。それでも実に長い間「キリストにある自由」を心底から理解することは出来ませんでした。



今回の集いでスイス日本語教会のマイヤー先生が全体集会の初日にパウロの個人的体験を通して「キリストにある自由」とはにつき語って下さいました。

マイヤー先生は第一テモテ1章12-17節こそパウロの救いの証ですと言われます。パリサイ人でベニヤミン人としてエリート中のエリートであったパウロは強い使命感をもってキリスト教徒達を迫害していましたが、ある時突然天からの光で地に倒され、自分が迫害しているイエスさまの「あわれみを受け」て180度の「回心」をします。

ここで使われている「あわれみを受ける」というギリシャ語は他の言葉に翻訳するのが非常に難しいことばで、交通事故で壁に激突するように、ある具体的な出来

事によって神の恵みそのものにぶちあたるという意味であるとマイヤー先生は語られました。

そしてパウロはイエス・キリストの焼き印をおされ僕＝奴隷となり「本当の自由」を得たのです。

私が救われる前に持っていた自由は「真の自由」ではありませんでした。モノからの自由はなく、律法からの自由もなく、死の恐怖からの自由、罪からの自由はなかったのです。実は自己中心による不自由のただ中で生きていたのです。

私たちを深く愛して下さいるイエスさまは滅びに突き進む私たちを「あわれんで下さり」具体的な出来事を通してそれぞれの人生に介入して下さいます。「イエス・キリストの奴隷として自由を得る」とは誠に真理であり聖書の驚くべきパラドックスであります。



最高の自由人とは

富永幹恵

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

今年のテーマ、キリストにある自由についてのメッセージを聞きながら思いをめぐらす事ができました。自分の中にある問題をいろいろな事を通して教えていただいた今回の集いででした。

そして、いかに自由にされていないかも知つかされました。「主人の僕でありながら、最高の自由人です」と証したパウロと同じ証がいつかできるようへりくだって歩みたいです。



クリスチャンの集会所でこんなに整って広い会場があるとは、ドイツは凄いです。集いのために労ってくださったすべての方々へ心より感謝します。

四年ぶりのヨーロッパ・キリスト者の集い

山内貴裕

シュトゥットガルト日本語教会

このたび、今年2022年のヨーロッパ・キリスト者の集いに参加することができ、感謝でした。

さまざまな事情から四年ぶりの参加となった今回は、「賛美の夕べ」のための合唱の編曲とピアノ伴奏に携わることができ、大変感謝でありましたが、実をいうと、ヴァイオリン、リコーダーとフルートの各奏者のみなさんの音の調弦調律を最初に行わずにいきなり始めてしまうことになり、音が少々ずれた状態での賛美になり、そこは大変恐縮に思うとともに、それでも最後まで守られたことに感謝しています。



僕は普段ドイツ国教会のオルガニストとして礼拝音楽を弾いていますが、同教会での礼拝は、正直、霊的な躍動感があるとは言えない状態であります。

しかし今回受付を済ませてのちに入った集い会場では、冒頭から高らかに「救いはキリストのうちにあり」と賛美チームが歌っており、また続けて行われた説教な

ど、会の終わりまで一貫して「救いはキリストのうちにあり」と唱えられており、僕自身が非常にうれしかったとともに、若干のいわゆるみことばのききんの状態にあったということに自覚させられた時でもありました。



スモールグループや分科会もとても有意義なときとなり、自分自身の信仰の方向性を確認することができました。私たちクリスチャンが霊的に満たされて、さまざまな場所に散らばっていても、ひどい世界情勢のなかだからこそ、主の前に一つとなって祈り、神様を知ろうとする人が一人でも多く起こされますようにと思いました。

来年再来年も同じ場所で行われるということですが、アメリカ英語の集いのみなさんによる大声で参ってしまったこと以外、場所や環境は基本的にはかなり良かったように思います。食事もしっかりとした量が用意されており、コーヒーも良心価格でいつでも飲むことができる点はよかったですと思います。

混乱要素が多い中、運営に携わってくださったみなさまには、本当に感謝しかありません。



つどいに行って たかはしかん

いろんなみんなと遊べて、楽しかったり、おもしろかったり嬉しかったりして、とても良いつどいでした。神様の話で心に残っているのは、イエスさまは神さまの子どもで、天で私たちを守ってくださる、本当にありがたい方なんだ、ということです。

CSで、工作とかをできて、とても楽しかったです。お友達もできて、いっしょにサッカーもできました。さいごのご飯では、CSのみんなと一緒に食べました。集いでできた思い出を、神様にありがとう、と伝えたいです。

集いに行って 高橋温

私は、初めて集いに参加しました。集いは、どんなものか最初は分かりませんでした。でも、運動会やCSもやって、とても楽しかったです。でも、キャンプファイヤーができなくて、残念でした。

CSでは、友達みんなと一緒に、賛美で踊ったり歌ったり、工作したりして、とても楽しかったです。ヨナさ



んのお話も、ちゃんとヨナさんが、ニネベの人たちをちょっとだけゆるすことができ、良かったなあと思いました。

運動会では、競走でもテーマ対決でも負けてしまったけど、最後のしっぽ取りで逆転できて、嬉しかったです。また集いに行きたいです。

何という幸せ

矢吹育代

フランクフルト日本語福音キリスト教会

この夏も集いに参加でき感謝いたします。今年は、日本から2人の孫と一緒に主にある交わりに加えていただきありがとうございました。集いのために、さまざまな準備をしてくださり、多くの労をとってくださった方々、ありがとうございました。

孫たちは多くの方々に受け入れられ愛されて過ごすことができました。宝物をいただいて日本に帰りました。

「見よ。何という幸せ なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって 共に生きることは。」詩篇 133:1

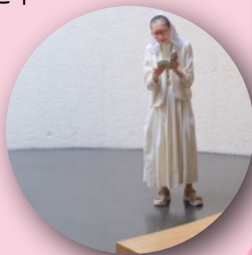


主の愛と憐れみ シスター・ソハラ マリア福音姉妹会

素晴らしい自然と環境、雰囲気の中で、今回の集いに参加させていただけたことを心から感謝し、良き主の御名を讃えています。

この集いを限りなく愛してくださるイエス様ご自身が、その御霊を通して、この小さな群れ全体に、そして個人個人に、深く、優しく、また強く、真理と愛のうちに語り、常に働き続けてくださっていることを体験させていただき、主の愛と憐れみにあふれる栄光を、垣間見せていただき、この暗い世界のただ中で、大きな喜びと希望をいただきました。

神様は今日も生きて、すべてを支配しておられる、真の唯一の王なる王、このお方にすべての栄光と誉れがささげられますように！



ぼくが一番たのしかったこと 高木信治

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

集いで、ぼくが一番たのしかったことは、CSです。みんなでいっぱいあそんで、うごいて、絵をかいたりしました。聖書のお話を聞いて、賛美もしました。CSでいっぱい友達ができました。また、運動会をやりました。ぼくは、白組でした。

運動会で一番たのしかったことは、リレーです。リレーでも、レースによってちがいます。ぼくは、1レース目で、CSでいっしょの子と、ににんさんきゃくをしました。3レース目で10回まわってから走ることもしました。運動会では、白組がかちました。うれしかったです。



ティーンズとの時間

ガウブ・ナタナエル

フランクフルト日本語福音キリスト教会

今年の集いには実行委員として初めて加わって、準備の段階から奉仕をすることができました。一言で言うと、大変やったけど最高でした！！本当に神様が働いてくださったと心から思います。

集いでは主にティーンズと関わっていたので、ティーンズとの時間について少しお伝えしたいです。合計で7人のティーンズが参加されて、矢吹先生と浅野先生にバイブルトークをしていただきました。メッセージがちゃんとティーンズの心に響いたみたいで嬉しかったです。

テーマであった「キリストにある自由」についてディスカッションの時間をもち、スモールグループの



時間ももち、ゲームをし、たくさんの絵を描く機会もありました。プログラムを通して、神様と繋がっているのが大切だ！ジーザスこそが私たちを自由にできるのだ！という結論に辿り着きました。

ティーンズとのやり取りの中で今年は沢山教えられたと思います。勝利の主イエス♪死を打ち破り♪とらわれ人を解放された♪この賛美が一番心に残りました。何回も賛美できてイエス様をみんな喜んでよかったです。

ガウブ・サラ

フランクフルト日本語福音キリスト教会

集いへは初めての参加でした。ティーンズプログラムで奉仕をし、めっちゃ楽しかったです。

リアルトークの時間が一番好きでした。みんなが本音を出せて、神様に感謝です。



来年も参加します！

呉佳恵

フランクフルト日本語福音キリスト教会

今回集いには初めて参加しました。私はティーンズのグループに参加したのですが、みんな優しく親切で友達も沢山出来ました！

ただ聖書を読んだり、牧師先生のメッセージを聞くだけではなく、みんなゲームをしたり賛美歌を歌ったり、運動会でみんなでラジオ体操をやったりしてとても面白かったです。ドイツでラジオ体操はとても新鮮でした。(笑)

特に泊まっていたところにプールが付いていたのは本当に最高でした！私は毎朝5時ごろに起きてプールで泳いでいました。自由時間には基本的に泳いでいた気がします。来年も絶対参加したいです！



恵まれ様でした！

井ノ上歌歩

スイス日本語福音キリスト教会

今年も集いに一泊二日で参加させていただきました。去年との違いは、今年はひたすら奉仕をさせていただいたということです。

行く電車の中で賛美のパワーポイントを作り、会場に着いたら賛美の練習をして、集会で賛美奉仕を捧げ、プログラムの終わりに部屋で翌日のパワーポイントを作成、翌日も賛美奉仕。そんな二日間でしたが、なぜか気持ちは平安と喜びで満たされていました。とっても忙しかったはずなのに、とっても楽しい時間でした。

スイスに来て、JEGメンバーの方々と2年間過ごさせていただく中で、喜んで仕えることを学ばせていただいています。集いの中で、喜びを持って奉仕ができたことは、わたしにとって感謝なことでした。これからも、さまざまな奉仕を通して、神様に成長させていただきたいです。集いの中で奉仕して下さった皆さん、本当にありがとう&恵まれ様でした！



キリストにある自由の喜び

川上寧 (やすし)

Japanese Christ's Disciples

「キリストにある自由」それが第39回ヨーロッパ・キリスト者の集いのテーマでした。そのテーマを語る中で、説教者や講師の先生方の何名かが取り上げられたのが、聖書に記されている「キリストのしもべ」という言葉でした。

「しもべ」は「奴隷」という意味もある言葉です。「自由」と「奴隷」という全く相反するような言葉がキリストと関連づけて聖書には記されている意味を考えさせられました。「自由」とは何にも束縛されない、何にも属していない一方で、「奴隷」とは束縛されていて、他者に所有されている者を指します。

キリストの「奴隷」でありながら、キリストにある「自由」をいただいていることを理解するのは容易ではありません。しかし、ある先生が言われた言葉が心に落ちました。「私たち人間はキリスト(神)の奴隷でなければ、必ず他の何かの奴隷になってしまう」と。

確かにそうです。そして自分はどうかかと問うてみました。もし私がキリストの奴隷でなければ、私は自分自身の奴隷になっている。自分の思いや願いの奴隷になっている。自己中心という奴隷から決して解放されることはないでしょう。

しかし、キリストの奴隷にさせていただいたことにより、キリストが私をキリストご自身のものとしてくださり、私自身や他のどんなものの奴隷からも解放してくださいました。キリストの奴隷にされて与えられた自由、その喜びを誰も奪い取ることはできません。感謝。



仕える者とさせて頂く恵み

川上真咲

Japanese Christ's Disciples

今年もキリスト者の集いに参加できました。思い起こせば、昨年の集いは、ビザ切れで日本へ戻らざるを得ない状況の中、針に糸を通すような形で参加を許されました。

そして祈りの内に「日本へ『行ってらっしゃい』」と送り出していただき、半年後、無事にビザ再取得、ヨーロッパに、集いに「帰って」来る事が出来ました。「お帰りなさい!」と笑顔で迎えてくださる方々がこんなに大勢いるのだ、という喜びに胸がいっぱいになり、神様の御業にただただ感謝するばかりです。

いくつかの奉仕にも携わらせていただきました。弱い者を用いてくださる主に助けられつつ、仕える者としていただくことの出来る恵みの数々もまた感謝いたします。特に子どもたちが伸び伸びと主を賛美し、御言葉と取り組む姿が目には焼き付いております。主の御手の内に健やかに霊肉共に成長していきますよう、祈ってやみません。

ともすれば孤独に陥りがちな異国での宣教師生活に、一人ではない、祈り支えてくださる方々がこれほど多くいるのだと思い出させてもらえることを感謝いたします。この主にある交わりが祝福の内に続けられていきますよう、祈ります。



人の生き様が胸を打ちました

藤本浩行

デュッセルドルフ日本語キリスト教会

ノンクリスチャンですが、始めて参加させていただきました。素晴らしい研修施設に加え、実行委員、参加者の皆様の熱意、優しさに支えられ充実した3泊4日の集いを終えることができました。本当に感謝感激しています。



賛美の生演奏、あかし、祈りを体験的に学ぶことができました。中でも、あかしは、語ってくださる人の生き様であり胸を打つものがありました。

また、次世代につなぐための集いプログラム素晴らしいです。今回の集いでの様々な方との出会いがありました。大切にしていきたいです。スタッフの皆様、事前の準備から、事後のまとめ、次回のつなぎなど、ご苦労様です。ありがとうございます。

最善のタイミングで！

ウンターベルガー玲子

ウィーン・バプテスト教会／ベーハイムガッセ

私にとっての今年度のハイライトは、新しい出会いでした。

講演の後に分かち合いをするためのスモールグループ、2日にわたってあった分科会、早天祈祷会での祈りのスモールグループなどなど、交わり、分かち合いを通して本当に恵まれました。そして、最終日に知り合った若いご夫婦との出会いは、本当に驚くべき、また、恐れのない念が起きるような神様の大きな祝福でした。

日曜日の礼拝の後、土曜日から遅れて参加した、私たち夫婦と同じウィーンから参加しているという若いご夫婦と挨拶をしました。いろいろ話をしていると彼らが住んでいるところが私たちと近いことがだんだんわかってきて、驚いたことに同じ通りの、しかも歩いて5分という信じられないほどの近所さんであることが判明したのです。

実は彼女は日本語と一緒に聖書を読めるクリスチャンの集まりが近くにあったらいいのという願いを持っていて、私は私で我が家が聖書を読んだり祈ったりできるようなスモールグループのために神様に用いていただき

たいという願いを持っていました。神様はそんな私たち2人の願いをちゃんと聞き届けてくださって、あまりにも明確で勘違いをしようのないほど、「願いを聞き届けました。さあ私の名の下に、2人で集まり、始めなさい」と神様ははっきりと導いてくださったのです。

先日、初めて2人で祈りとバイブルスタディーの時間を持ちました。お互い、神様の起こしてくださった奇跡のような巡り合わせに感動しながら祈り、御言葉を分かち合う交わりの時間を楽しみました。集いでの出会いがなければ、偶然住まいの近くですれ違った日本人がクリスチャンであることも、まさか同じ願いを持っていることも知らずにいたことでしょう。

私たちの小さな願いも決して小さなこととして捨て置かれず、最善のタイミングで事を成してくださる全知全能の神様の御名を心からほめたたえます！ハレルヤ！



息吹を与えてくださった主

下山由紀子

バルセロナ 日本語で聖書を読む会

「しかし、わたしがお前の傍らを通って、お前が自分の血の中でもがいているのを見たとき、私は血まみれのお前に向かって、『生きよ』と言った。血まみれのお前に向かって、『生きよ』と言ったのだ。

エゼキエル書を読み進んで16章まできたとき、5～6節の言葉に私の胸は貫かれました。生まれるなり捨てられた子が自分の血にまみれてもがいている。その傍らを主が通ってご覧になり、「生きよ」と言われたくんだりです。『わたしは血まみれのお前に向かって「生きよ」と言ったのだ』という文章が2度繰り返され強調されています。私に思い当たる節がありました。

小学校3年で千葉から横浜に引越すまで底抜けに明るく積極的に自信に満ちた少女だった私は、横浜でも同じように振舞いました。しかし都会っ子のクラスメート達は私が親から受け継いだ地方の言葉を種に、私を笑いました。この嘲笑を気にした私は萎縮して徐々にもの言えなくなり、言い返せない私を周囲は更に利用し、ついに本格的ないじめへと発展してしまいました。

嘲笑、暴力、盗み、侮辱などに苦しむ毎日でしたが、挨拶をしても誰も返してくれない、話かけても誰も相手になってくれない、無視という精神的な暴力が特につらい毎日で、自分が存在価値のない者だと思ふようにすらなりました。実際のところ、いじめとは被害者に向かって「お前は存在価値のない人間だ」ということを日々伝え、洗脳していく行為だということに後になって気が付きました。私は常に友達を切望しながらも級友達を恨んでいました。

親も先生も理解してくれないこの苦しみから逃れるためにわざわざ学区外の高校に入って新しいスタートを切ったものの、私はそれまでの6年間のいじめによってすっかり対人恐怖症になっていたの、クラスメートとまともな人間関係を築けず、皆



はしばらくして私を遠ざけ気味悪がるようになりました。ここに来てはじめて、いじめの原因は私自身にあるのだと察知し、心からショックを受けると同時に恨むべきはクラスメートではなく、自分になりました。

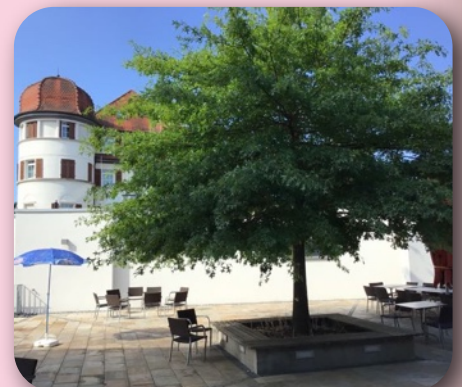
存在価値のない私が自分を恨みつつ生きている意味はない。自殺願望は日に日に増すばかりでしたが、実行する勇気も出せないまま、私は私が出血した心の血の中でもがいていたのでした。

そんなある日、級友のひとりが学校で発熱し、私は保健室に走って行って彼女のために何かを探しました。私はいつも、お友達になってもらえる可能性があるなら何でもしていたのです。冷たい水で濡らしたタオルを彼女に持っていったとき、彼女は私に「ありがとう」と言ってくれました。そしてこの言葉は私を心底打ちのめしました。こんな温かく私を包み込む言葉はもう何年もかけられていなかったからです。

自分にも人に感謝される価値がある。

この時以来、私はこの喜びを求め、「仕えて生きる」がテーマになり今に至っていますが、先日このエゼキエル書を読んだとき、そうだったのかと稲妻に打たれた思いでした。あの時、主が血まみれの私の傍らを通って「生きろ」と仰ったのだ、あれは神のみ業だったのだとはっきり自覚したのでした。

「死の陰の谷を行くときもわたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。」詩篇のこの言葉も、いじめられている時には知らない言葉でしたが、確かに私は自分自身がこのみ言葉を体験していたのだと、同時に悟りました。



8月6日(土) “賛美と証しの夕べ”における証し

ここに出会いがある

伊勢希 (のぞみ)

ブリュッセル日本語プロテスタント教会

今回、私は初めての参加ということもあり少しばかり緊張していた。また周りの方々に話を伺うと多くの方がリピーター。馴染めるのかと不安もあったが、リピーターの方々の「ここで与えられる多くの出会いと、また1年ぶりの再会を楽しみに来ている」との言葉にどれだけ参加された方々にとって、この「集い」が大きなものとなっているのかを教えていただいた。

まず4日間のプログラムの充実さに驚いた。全体講演をはじめ、参加者一人ひとりに合うようにと24種類の分科会がある。また本大会に並行してティーンズと幼少科対象のプログラムがあることにも驚いた。私は幼少科のプログラムを少し手伝わせていただいたが、スタッフの方々の子どもたちへの想いと、どこまでも子ども目線の考えに胸が熱くなり、多くの気づきを与えられた。



またこの集いに参加し「伝道」について改めて考える機会をいただいた。初めて参加した方々は周りの方々の「ロコミ」で来たという。ここに素敵な出会いがある、ここに喜びがある、その言葉に魅了されたそう。その言葉に私自身が「伝道」を難しく考え過ぎていたと、はっとさせられた。ここに出会いがある、ここにあなたを救う方との出会いがある。そんな喜びの一言を私は語ってこられたのか、自分への問いかけのひと時ともなった。

「集い」は常に喜びと楽しさと慰めがあった。自然の美しさに癒され、そこで出会う方々との語り合いに、礼拝のひと時に、子どもたちの眼差しに慰められた。ああ、教会とはこういう所だ。ただ楽しいだけでなく、そこに慰めがあり希望を見出せる場なのだ実感した。

最終日、皆が口を揃え「また1年後」という別れの挨拶をしていた。寂しそうな表情と同時に癒された人たちの表情。私も無意識に「また1年後」と挨拶していた。多くの出会いと気づきを与えられ心から感謝。



キリスト者の集いの動画は以下をクリックしてごらんいただけます。

[スライドショー \(4分\)](#) [紹介用 ショートビデオ \(6分\)](#) [ビデオ ダイジェスト版 \(16分\)](#)